

NPO 緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791

10月8日(月) 二本松市民会館にて

環境フォーラム

「うつくしまEMパラダイス」開催

10月8日(月)、二本松市民会館でUーネット主催による環境フォーラム「うつくしまEMパラダイス」が約900名の参加があり開催されました。

我がNPO緑の会は県内の姉妹クラブ等にも声がけした結果、62名の参加となり、用意した貸切バスは、補助席を使っても収容できないため、県



北部の福島県に近いグループ(高萩緑の会、日立緑の会)の皆さんは、別行動で参加しました。貸切バス組は、往路はEM生活社からいただいたDVD(EMove News)を勉強しながら、復路は綾小路きみまろのDVDを楽しみながら、片道4時間の車を有意味かつ

楽しく過ごしました。フォーラムでは次の発表や講演などがありました。

●5つの事例発表要旨

①作物への放射性物質移行抑制、農地及び住宅地の放射線量低減化

栃木県那須塩原市：EM柴田農園、柴田和明さん

那須塩原市で農業を営む柴田和明さんは、安全な作物を出荷するため自身の農地にEMを活用すると共に、自宅や近隣農地の放射線量低減化に取り組んでいる。生産した農作物の放射線セシウムの濃度は、いずれも検出限界以下となった。当地域の空間線量はEMを熱心に散布している住宅では3〜5割低減しているところもある。

②住宅地の放射線量低減化
福島県いわき市：EMとしょうるの会・久呉ますみさん

久呉さんは、毎日のように自宅を中心にじよつろでEM活性液を散布しているほか、毎週60リットルのEM活性液を20名の会員に配布しており、EMを散布している場所は線量が2〜5割減少している。

③園内の放射線量低減化、安全・高品質な農作物の生産
栃木県那須町：障害者支援施設・マ・メゾン光星・大平雅士さん

施設では、利用者の自立や発達訓練を兼ねて野菜づくり

やシイタケの原木栽培、山菜採り、果樹栽培などを行っていましたが、原発事故で農地が汚染され、多くの製品が出荷・販売停止になった。

シイタケ原木やホダ場周辺にEM活性液を散布したところ、放射線量が低減し、シイタケなどの産物を出荷することができるようになった。

④住宅及び周辺の山林を対象とした放射線量低減化
福島県田村市都路町：コズモファーム 今泉 智さん

原発から7kmの地点にある自宅は避難指示解除準備区域に指定されているが、避難せずに踏みとどまり、トントタンク42基を設置して活性液を培養し、高圧の放水ポンプで屋敷の屋根や敷地内の全てにEM活性液を散布して放射線の低減を図っている。

また、周囲の山林一帯を除染しないと線量低減化が難しいと判断し、現在は広大な32haにEMを散布している。

⑤EM技術による酪農の放射線対策と環境改善
福島県南相馬市：瀧澤牧場・瀧澤昇司さん

南相馬市で酪農(ホルスタイン38頭、育成牛10頭)を営む瀧澤さんは、牧草が放射能に汚染されたため、EM資料を与えることによる原乳中の放射性物質の低減化を試験したところ、2ヶ月で数値が下がる

効果が確認されたことを報告しました。

●招聘講演

タイ王国国家洪水汚水問題緊急解決調整諮問委員会…

ウオラヌット・ジェタムスタボン委員長



ジェタムスタボン委員長

昨年7月末タイ王国の北部並びに東北部の河川が次々と氾濫し洪水が発生、その後も規模は拡大し、10月にはバンコク北部の工業地帯まで浸水するという大災害となった。

このような中、同国では国家プロジェクトとして水質改善や悪臭対策などにEMを活用し、大きな成果を得、洪水後の清掃や衛生対策に活用されていることが報告された。

また、EMに信頼をおいていることのエピソードとして、同委員長が住宅公社在職時にEMを活用して、当時困っていた貯水池(1800万トン)の悪臭、汚水対策に500トンのEM活性液を投入したところ、5週間でキレイになり、費用は300万円で済んだが、専門家は、解決するのに10年、3億円かかるだろうと言っていたなどと、EMの活躍について講演しました。



参加したNPO緑の会の会員・会友の皆さん

**●パネルディスカッション
ベラルーシ共和国および福
島での研究成果等について
パネリスト**

アレキサンダー・ナウモフ博
士(ベラルーシ共和国国立科学
アカデミー放射線生物学研究
所・所長)
アレクサンドル・ニキティン博
士(同研究所放射線生態学研
究室・室長)
奥本秀一(株)EM研究機構・
研究部長)
野呂美加(NPO法人チエル
ノブイリへのかけはし代表)
コメンテーター
比嘉照夫・名城大学教授、
杉本一朗・照庭会理事長



左から、野呂さん、奥本部長、ナウモフ博士、ニキティン博士

野呂美加さんの訴え
チエルノブイリのこどもたち
の支援活動を続けてきた野呂

美加さんは、放射能の障害は
あとから時間を置いて出てく
るから怖い、少々の汚染は大
したことは無いと思っていたら
大間違いです。

すでに福島の子供たちには
甲状腺にしこりやのう胞が見
つかっていることもあるので、
特に、子どもを守り抜いてい
くことが大事だと声を大にして
会場の皆さんに訴えました。

ニキティン博士の研究発表

ニキティン博士は、EMが放
射性セシウムの植物への移行
を抑制するメカニズムを追求
する実験(秋まき小麦とエンバ
クの種を播いたポットとレタス
を植えた畑で実施)を行った。

その結果、EM1とEMボカ
シはセシウムの植物への移行を
減らすなど、セシウムで汚染
された土壌で安全な農作物を
栽培するために有効、安全で
あると発表しました。

奥本研究部長の報告

奥本部長は、EMやEM堆肥
を活用することで農作物への
放射性セシウムの移行抑制を
図る研究をしています。

その結果、大きな効果があ
ることが分かってきており、こ
のEM技術や資材を活用して
有機循環型のシステムを構築
して、福島県産の農産物が安
全・安心なものであることを
世に知らしめることが可能で
あることを報告しました。

特別講演

**株)ホワイトマックス・増本勝久
取締役会長**

同社の開発したEMを添加し
たエンバランス容器や袋が食品
の保存に効果があることは知
られています。この特異性を
活用してエンバランス容器で、
放射性セシウムの減少試験を
行なったところ、大きな減少
効果があったことを報告しま
した。今後も、長期的な試験
を継続していくそうです。

比嘉教授の総括講演



総括講演で熱く説く
比嘉教授

比嘉教授は、締め括りの講
演で、「福島の復興は、福島の
地で健康に生きられて、汚染
のない健康な農産物ができ
ることが条件になる。EMを思
いっきり使えば必ず放射線量を
下げることができる。」と力強
く参加者に激励しました。

編集後記 年末になると「ジング
ルベル」が何処からともなく聞こ
えてきて、慌ただしさを感じてしま
います。この歌は、1857年にア
メリカ・ポストンの牧師ジェーム
ズ・ピアポントが One horse open
sleigh (一頭立ての馬そり)という
タイトルで作った曲で、クリスマス
のための歌ではなく感謝祭用の歌
だったそうです。
クリスマスには直接関係の無い歌
なのですが、大変好評だったので、
今ではすっかりクリスマス・ソング
の定番になってしまいました。ま
た、タイトルで分かるように、1頭
とはトナカイではなく、馬だった
のですね。
KF